



# 泊発電所 敷地周辺の地質・地質構造 に関するコメント回答方針

---

平成27年10月9日  
北海道電力株式会社

# ヒアリング・審査会合における指摘事項

No	指摘事項	指摘時期
1	敷地前面海域の連動断層の南端部付近の陸域の地質構造の特徴については、公刊の地質図等によりさらに確認すること。また、海成段丘の分布に関する評価について文献を確認すること。	H26年3月5日 審査会合
2	寿都半島西方の海成段丘高度の調査結果について、より分かりやすく提示すること。	H27年3月24日 ヒアリング
3	敷地周辺陸域の地質層序については、その作成に用いた図幅の出典を追記すること。	H27年7月14日 ヒアリング
4	敷地周辺陸域における個別断層の評価において、震源として考慮しない断層については別冊に整理すること。	H27年8月19日 ヒアリング
5	変位地形の分類基準については、引用した箇所と独自に作成した箇所とがわかるように整理すること。	H27年8月19日 ヒアリング
6	段丘堆積物については、地質年代、火山灰との層位関係や海水準変動(MIS)との対応関係がわかる資料を追加すること。	H27年8月19日 ヒアリング
7	上目名付近の断層については、地質図に示されている露頭の範囲と露頭スケッチとが整合しているかを確認すること。	H27年8月19日 ヒアリング
8	黒松内低地帯の断層に係る南端の評価については、変形が明瞭に認められる測線を追加するとともに、測線No.11も含めて活動性評価の解釈を加えること。	H27年8月19日 ヒアリング
9	敷地前面及び周辺海域の地質層序表を追加すること。	H27年8月19日 ヒアリング
10	敷地前面海域の文献断層において、敷地の北西に示されている日本の活断層による活撓曲については、活動性の評価結果及びその根拠を追加すること。	H27年8月19日 ヒアリング
11	敷地前面及び周辺海域における個別断層の評価において、震源として考慮する活断層の一部については、評価結果のみしか示されていないので、その根拠となる端部の音波探査記録等を追加すること。	H27年8月19日 ヒアリング
12	積丹半島西岸の地形及び地質・地質構造に関する評価については、敷地近傍における調査との関係がわかるような記載を追加すること。	H27年8月19日 ヒアリング
13	敷地周辺陸域、敷地前面及び周辺海域、敷地近傍の文献断層分布図に震源として考慮する活断層をトレースしたものを追加すること。	H27年8月19日 ヒアリング
14	文献断層分布図等に方位、縮尺が図示されているかを確認すること。	H27年8月19日 ヒアリング

# 指摘事項に関する回答方針

No	指摘事項	回答方針
1	敷地前面海域の連動断層の南端部付近の陸域の地質構造の特徴については、公刊の地質図等によりさらに確認すること。また、海成段丘の分布に関する評価について文献を確認すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南端部付近の陸域の地質構造の特徴については、鈴木ほか（1981）等をレビューした。</li> <li>・南端部付近の陸域の海成段丘の分布に関する評価については、小池・町田編（2001）を確認し、当社調査結果と併せて検討した。</li> <li>・<u>回答内容は、「まとめ資料」P140～P142及びP144～P146に掲載。</u></li> </ul>
2	寿都半島西方の海成段丘高度の調査結果について、より分かりやすく提示すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寿都半島周辺のMIS5e海成段丘高度について、グラフ化を図った。</li> <li>・<u>回答内容は、「まとめ資料」P147に掲載。</u></li> </ul>
3	敷地周辺陸域の地質層序については、その作成に用いた図幅の出典を追記すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>回答内容は、「まとめ資料」P14に掲載。</u></li> </ul>
4	敷地周辺陸域における個別断層の評価において、震源として考慮しない断層については別冊に整理すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震源として考慮する活断層の評価根拠については「まとめ資料」に、考慮しないものについては「資料集」に記載した。</li> <li>・ただし、敷地近傍の「発足南リニアメント」及び「発足北リニアメント」は、震源として考慮しないが、敷地に近接していることから、「まとめ資料」に記載した。</li> </ul>
5	変位地形の分類基準については、引用した箇所と独自に作成した箇所とがわかるように整理すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変位地形分類基準の引用文献及び作成手順を記載した。</li> <li>・<u>回答内容は、「まとめ資料」P9に掲載。</u></li> </ul>
6	段丘堆積物については、地質年代、火山灰との層位関係や海水準変動（MIS）との対応関係がわかる資料を追加すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地周辺の地形層序表を記載した。</li> <li>・<u>回答内容は、「まとめ資料」P10に掲載。</u></li> </ul>
7	上目名付近の断層については、地質図に示されている露頭の範囲と露頭スケッチとが整合しているかを確認すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地質図（詳細位置図）の地層境界に誤りがあったことから、修正した。</li> <li>・<u>回答内容は、「資料集」P16に掲載。</u></li> </ul>
8	黒松内低地帯の断層に係る南端の評価については、変形が明瞭に認められる測線を追加するとともに、測線No.11も含めて活動性評価の解釈を加えること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変形が明瞭に認められる測線No.6及びNo.9を追加し、各記録に関する解釈を記載した。</li> <li>・<u>回答内容は、「まとめ資料」P73～P76に掲載。</u></li> </ul>
9	敷地前面及び周辺海域の地質層序表を追加すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>回答内容は、「まとめ資料」P89～P90に掲載。</u></li> </ul>

# 指摘事項に関する回答方針

No	指摘事項	回答方針
10	敷地前面海域の文献断層において、敷地の北西に示されている日本の活断層による活撓曲については、活動性の評価結果及びその根拠を追加すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震源として考慮しないことから、「資料集」に評価結果及び根拠を追加した。</li> <li>・回答内容は、「資料集」P44～P47に掲載。</li> </ul>
11	敷地前面及び周辺海域における個別断層の評価において、震源として考慮する活断層の一部については、評価結果のみしか示されていないので、その根拠となる端部の音波探査記録等を追加すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まとめ資料」及び「資料集」に追加した。</li> </ul>
12	積丹半島西岸の地形及び地質・地質構造に関する評価については、敷地近傍における調査との関係がわかるような記載を追加すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「H25.7.23論点」に基づく検討対象（積丹半島西岸のMm1段丘及び海岸地形を一様に隆起させる汀線と平行な活構造の有無）を明確にし、その上で、検討概要を時系列で示した。</li> <li>・回答内容は、「まとめ資料」P218に掲載。</li> </ul>
13	敷地周辺陸域、敷地前面及び周辺海域、敷地近傍の文献断層分布図に震源として考慮する活断層をトレースしたものを追加すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まとめ資料」に参考資料として追加。</li> </ul>
14	文献断層分布図等に方位、縮尺が図示されているかを確認すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方位、縮尺等の記載漏れを図面に追加。</li> <li>・回答内容の一例は、「まとめ資料」P47及びP60参照（傾動の凡例、方位及び縮尺追加）。</li> </ul>